

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-261502

(43)公開日 平成11年(1999) 9月24日

(51)Int.Cl. ⁶	識別記号	F I	
H 0 4 H 1/00		H 0 4 H 1/00	N
G 0 6 F 13/00	3 5 1	G 0 6 F 13/00	3 5 1 Z
			3 5 1 L
H 0 4 B 1/16		H 0 4 B 1/16	M
H 0 4 N 7/08		H 0 4 N 7/08	Z
審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 10 頁) 最終頁に続く			

(21)出願番号 特願平10-56696

(22)出願日 平成10年(1998) 3月 9日

(71)出願人 000003078

株式会社東芝

神奈川県川崎市幸区堀川町72番地

(72)発明者 三浦 裕康

東京都青梅市末広町2丁目9番地 株式会
社東芝青梅工場内

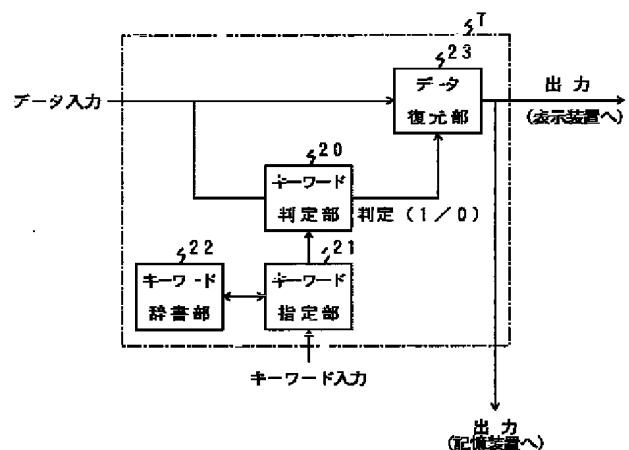
(74)代理人 弁理士 鈴江 武彦 (外6名)

(54)【発明の名称】 携帯端末装置、データ受信処理方法及び記録媒体

(57)【要約】

【課題】受信者が要求するデータのみを選択的に蓄積し、データの蓄積に必要な記憶容量の低減と蓄積したデータの容易な検索を可能とする。

【解決手段】データ中にそのデータ内容を特定するキーワードを設定しておく。データ受信時に受信者が指定したキーワードを用いて、キーワード判定部20により受信データ中に所望のキーワードがあるか否かを判定する。その結果、データ中に所望のキーワードが存在する場合は“1”、存在しない場合は“0”のフラグを立てる。データ復元部23では、このフラグが“1”の場合にはデータを復元し、“0”の場合にはデータの復元を行わずに次のデータを待つ。これにより、所望のキーワードを含むデータのみを蓄積することができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 データ受信機能を備えた携帯端末装置であって、

キーワードを指定するキーワード指定手段と、
外部からデータを受信した際に、そのデータ中に予め設定されたキーワードを検出し、その検出されたキーワードが上記キーワード指定手段によって指定されたキーワードと一致するか否かを判定するキーワード判定手段と、

このキーワード判定手段の結果、上記検出されたキーワードが上記指定されたキーワードと一致する場合にのみ、当該データを復元するデータ復元手段と、
このデータ復元手段によって復元されたデータを蓄積するデータ蓄積手段とを具備したことを特徴とする携帯端末装置。

【請求項2】 上記検出されたキーワードが上記指定されたキーワードと一致する場合に、当該データ中に所望のデータがあることを示す識別情報を設定する識別情報設定手段を有し、

上記データ復元手段は、この識別情報設定手段によって設定された識別情報に基づいて当該データを復元することを特徴とする請求項1記載の携帯端末装置。

【請求項3】 データ受信機能を備えた携帯端末装置であって、

キーワードを指定するキーワード指定手段と、
外部からデータを受信した際に、そのデータを復元するデータ復元手段と、

このデータ復元手段によって復元されたデータからキーワードを抽出するキーワード抽出手段と、
このキーワード抽出手段によって抽出されたキーワードが上記キーワード指定手段によって指定されたキーワードと一致するか否かを判定するキーワード判定手段と、
このキーワード判定手段の結果、上記抽出されたキーワードが上記指定されたキーワードと一致する場合にのみ、上記復元されたデータを蓄積するデータ蓄積手段とを具備したことを特徴とする携帯端末装置。

【請求項4】 データ中にそのデータ内容を特定するキーワードを設定しておき、

外部からデータを受信した際に、そのデータ中に設定されているキーワードを検出し、
その検出されたキーワードと受信者が指定したキーワードとを比較して一致するか否かを判定し、
この判定結果に応じて両者のキーワードが一致する場合にのみ、当該データを復元し、
この復元後のデータを蓄積することを特徴とするデータ受信処理方法。

【請求項5】 外部からデータを受信した際に、そのデータを復元し、

この復元後のデータからキーワードを抽出し、
この抽出されたキーワードと受信者が指定したキーワー

ドとを比較して一致するか否かを判定し、
この判定結果に応じて両者のキーワードが一致する場合にのみ、上記復元後のデータを蓄積することを特徴とするデータ受信処理方法。

【請求項6】 データ受信機能を備えたコンピュータに用いられる記録媒体であって、
コンピュータに、

外部からデータを受信した際に、そのデータ中に設定されているキーワードを検出させ、

その検出されたキーワードと受信者が指定したキーワードとを比較して一致するか否かを判定させ、

この判定結果に応じて両者のキーワードが一致する場合にのみ、当該データを復元させ、

この復元後のデータを蓄積させるためのプログラムを記録したコンピュータ読取り可能な記録媒体。

【請求項7】 データ受信機能を備えたコンピュータに用いられる記録媒体であって、
コンピュータに、

外部からデータを受信した際に、そのデータを復元させ、

この復元後のデータからキーワードを抽出させ、
この抽出されたキーワードと受信者が指定したキーワードとを比較して一致するか否かを判定させ、

この判定結果に応じて両者のキーワードが一致する場合にのみ、上記復元後のデータを蓄積させるためのプログラムを記録したコンピュータ読取り可能な記録媒体。

【発明の詳細な説明】
【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、放送データを受信するための受信機能を備えた携帯端末装置であって、特にユーザが望むデータのみを選択的に蓄積可能な携帯端末装置と、同装置に用いられるデータ受信処理方法及び記録媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、放送データを受信、蓄積する装置として、特開平6-350546公報に開示された関連番組判定装置が知られている。これは、ニュース記事などのテキストデータを分かち書き処理して得られるキーワード候補と、ジャンル判定用のジャンル別キーワードとを比較参照してそのニュース記事内容に相応しいジャンルを自動的に判定し、さらに同一ジャンルに属する全番組との関連性を算出して関連番組を判定するものである。

【0003】この場合、上記関連番組判定装置では、全番組を対象として、それらのテキストデータ中に含まれているキーワードの出現頻度からジャンルを判定し、そのジャンルに応じて各番組を蓄積する。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】上記したように、従来、全番組を対象として、そのデータ中のキーワードに

基づいてジャンルを特定するものはあったが、受信者が要求するデータのみを選択的に蓄積するものはない。

【0005】また、現在、テレビ放送で行われているデータ放送については、受信したデータは全て一度受信端末に蓄積するといった方式を採っている。このため、大容量の記憶装置（例えば磁気ディスクドライブ）が必要になり、特に携帯端末装置のような小型の機器では対応しきれない問題がある。

【0006】本発明は上記のような点に鑑みなされたもので、受信者が要求するデータのみを選択的に蓄積し、データの蓄積に必要な記憶容量の低減と蓄積したデータの容易な検索を可能とする携帯端末装置、データ受信処理方法及び記録媒体を提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明の請求項1に係る携帯端末装置は、データ受信機能を備えた携帯端末装置であって、キーワードを指定するキーワード指定手段と、外部からデータを受信した際に、そのデータ中に予め設定されたキーワードを検出し、その検出されたキーワードが上記キーワード指定手段によって指定されたキーワードと一致するか否かを判定するキーワード判定手段と、このキーワード判定手段の結果、上記検出されたキーワードが上記指定されたキーワードと一致する場合にのみ、当該データを復元するデータ復元手段と、このデータ復元手段によって復元されたデータを蓄積するデータ蓄積手段とを具備したことを特徴とする。

【0008】このような構成によれば、データ中にそのデータ内容を特定するキーワードを設定しておき、外部からデータを受信した際に、そのデータ中に設定されているキーワードを検出し、その検出されたキーワードと受信者が指定したキーワードとの比較から、両者のキーワードが一致する場合にのみ、当該データを復元し、この復元後のデータを蓄積する。これにより、受信者が要求するデータのみを選択的に蓄積することができ、データの蓄積に必要な記憶容量の低減化や、蓄積したデータの容易な検索が可能となる。

【0009】また、請求項2では、上記検出されたキーワードが上記指定されたキーワードと一致する場合に、当該データ中に所望のデータがあることを示す識別情報を設定する識別情報設定手段を有し、上記データ復元手段は、この識別情報設定手段によって設定された識別情報に基づいて当該データを復元することを特徴とする。

【0010】このような構成によれば、データ中にそのデータ内容を特定するキーワードを設定しておき、外部からデータを受信した際に、そのデータ中に設定されているキーワードを検出し、その検出されたキーワードと受信者が指定したキーワードとの比較から、両者のキーワードが一致する場合に、当該データ中に所望のデータがあることを示す識別情報を設定する。そして、データを復元する際に、この識別情報を見て、所望のデータが

あることが示されていれば、当該データを復元する。これにより、受信者が要求するデータのみを選択的に蓄積することができ、データの蓄積に必要な記憶容量の低減化や、蓄積したデータの容易な検索が可能となる。

【0011】また、本発明の請求項3に係る携帯端末装置は、データ受信機能を備えた携帯端末装置であって、キーワードを指定するキーワード指定手段と、外部からデータを受信した際に、そのデータを復元するデータ復元手段と、このデータ復元手段によって復元されたデータからキーワードを抽出するキーワード抽出手段と、このキーワード抽出手段によって抽出されたキーワードが上記キーワード指定手段によって指定されたキーワードと一致するか否かを判定するキーワード判定手段と、このキーワード判定手段の結果、上記抽出されたキーワードが上記指定されたキーワードと一致する場合にのみ、上記復元されたデータを蓄積するデータ蓄積手段とを具備したことを特徴とする。

【0012】このような構成によれば、外部からデータを受信した際に、そのデータを復元し、この復元後のデータからキーワードを抽出し、この抽出されたキーワードと受信者が指定したキーワードとの比較から、両者のキーワードが一致する場合にのみ、復元後のデータを蓄積する。これにより、データの中に予めキーワードを設定しておくなくとも、復元後のデータからキーワードを抽出することで、受信者が要求するデータのみを選択的に蓄積することができ、データの蓄積に必要な記憶容量の低減化や、蓄積したデータの容易な検索が可能となる。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照しながら本発明の実施形態を説明する。図1は本発明の一実施形態に係る携帯端末装置の構成を示すブロック図である。なお、本装置は、例えば半導体ディスク等の記録媒体に記録されたプログラムを読み込み、このプログラムによって動作が制御されるコンピュータによって実現される。

【0014】図1に示すように、本装置は、受信アンテナ1、周波数変換回路2、復調回路3、デマルチプレクサ4などからなる受信機能を備えており、外部端末から送られてくる放送データを受信するものである。

【0015】なお、本実施形態において、放送データとは、特定の受信者を対象としてパケット形式で送られてくるデータである。この放送データは、テキスト／映像／音声の3つの情報を含み、その中のテキストとは、文章などのデータのことである。また、映像や音声は、通常アナログデータであるが、ディジタル化してテキストの中に入れて送ることも可能である。

【0016】受信アンテナ1は、外部から電波にて送られてくる放送データを受信する。周波数変換回路2は、受信アンテナ1によって受信された放送データの周波数を復調回路3が動作可能な所定の周波数に変換する。復

調回路3は、周波数変換回路2によって周波数変換された後のデータをベースバンド信号に復調する。デマルチプレクサ4は、復調回路3によって復調された信号をテキスト／映像／音声に分離して、それぞれの処理部に送る。

【0017】また、本装置は、MPU（マイクロプロセッサユニット）5、記憶装置6、データ処理部7、映像処理部8、音声処理部9、表示装置10、スピーカ11、操作部12を備えている。

【0018】MPU5は、本装置全体の制御を行うものであり、データ処理部7、映像処理部8、音声処理部9などの各処理部を制御してデータ受信処理を行う。記憶装置6は、例えば半導体記憶装置などからなり、ここではキーワードによって選択されたデータを蓄積する。また、本装置を制御するためのプログラムも、この記憶装置6に格納されている。

【0019】データ処理部7は、本発明の中心となる部分であり、テキストデータを対象として、受信者が要求するデータを選択するための処理を行う。このデータ処理部7の構成については後に詳しく説明する。映像処理部8は、デマルチプレクサ4によって分離された映像データを処理する。音声処理部9は、デマルチプレクサ4によって分離された音声データを処理する。なお、映像データや音声データの処理については、本発明とは直接には関係しないため、具体的な説明は省略するものとする。

【0020】表示装置10は、例えばLCD（Liquid Crystal Display）からなり、テキストデータや映像データを表示する。スピーカ11は、音声データを出力する。操作部12は、例えばキーボードなどからなり、キーワード入力など、受信端末の操作時に用いられるものである。

【0021】このような構成において、データの流れは次のようになっている。外部からパケット形式で送られてくる多重化された放送データの高周波信号は受信アンテナ1で受信され、周波数変換回路2で次段の復調回路3が動作可能な周波数まで周波数変換される。次に、復調回路3にてベースバンド信号に復調され、デマルチプレクサ4でテキスト／映像／音声に分離される。

【0022】その後、データ処理部7によりパケットデータの復元（テキストデータ化）が行われ、受信者が要望するテキストデータのみが記憶装置6に蓄積される。同時に、表示装置10に表示されるようになっている。また、デジタル化された映像データや音声データがテキストデータ中に含まれていれば、映像の表示や音声の出力も行われることになる。

【0023】ここで、データ処理部7の構成について説明する。図2に第1の実施形態におけるデータ処理部7の構成を示す。データ処理部7は、キーワード判定部20、キーワード指定部21、キーワード辞書部22、デ

ータ復元部23からなる。

【0024】受信者が直接またはキーワード辞書22の中から指定したキーワードにより、キーワード判定部20において受信データ中（後述する図3のキーワード部32）に所望のキーワードがあるか否かが判定される。この場合、単数あるいは複数のキーワードの論理演算（AND、OR）などによって判定し、例えばデータ中に所望のキーワードが存在する場合は“1”、存在しない場合は“0”のフラグを立てるようにする。

【0025】次のデータ復元部23では、このフラグが“1”の場合にはデータを復元し、“0”の場合にはデータの復元を行わずに次のデータを待つ。従って、所望のキーワードを含むデータのみが復元され出力されることになる。なお、データの復元とは、データ処理部7に入力されるパケットデータをテキスト化することである。

【0026】図3に第1の実施形態におけるパケットデータ形式の例を示す。図中30はパケットヘッダ部、31はキーワードヘッダ部、32はキーワード部、33はデータヘッダ部、34はデータ部である。

【0027】すなわち、第1の実施形態では、外部から送られてくる放送データには、予め発信者によって設定されたキーワードが設けられている。このキーワードは、例えばデータ内容を特定するためのものであり、キーワード部32に挿入される。なお、キーワードを挿入してデータ放送を行うことや、そのキーワードをどこに入れておくかなどについては、プロトコルとして端末間同志で予め決めておくものとする。

【0028】さらに、図4に示すフローチャートを参照して、データ処理部7の処理の流れについて説明する。図4は第1の実施形態におけるデータ処理の動作を示すフローチャートである。受信データがデータ処理部7に入力されると（ステップA11）、キーワード判定部20はそのデータ中（キーワード部32）に予め設定されたキーワードを検出し（ステップA12）、その検出したキーワードと受信者が指定したキーワードとを比較して、両者のキーワードが一致するか否かを判定する（ステップA13）。

【0029】その結果、両者のキーワードが一致する場合、つまり、データ中に受信者が望むキーワードが存在する場合には（ステップA13のYes）、キーワード判定部20は判定結果としてフラグ“1”をセットする（ステップA14）。一方、両者のキーワードが一致しない場合、つまり、データ中に受信者が望むキーワードが存在しない場合には（ステップA13のNo）、キーワード判定部20は判定結果としてフラグ“0”をセットする（ステップA15）。

【0030】データ復元部23では、キーワード判定部20での判定結果を受け、その判定結果に応じて受信データの復元（テキストデータ化）を制御する。すなわ

ち、フラグが“1”の場合には(ステップA16のYes)、データ復元部23は受信データを復元し(ステップA17)、その復元後のデータを出力する(ステップA18)。一方、フラグが“0”の場合には(ステップA16のNo)、データ復元部23はデータの復元を行わずに次のデータを待つ(ステップA19)。

【0031】このようにして、所望のキーワードを含むデータのみが復元され、出力される。データ処理部7から出力されたデータは、MPU5を通じて記憶装置6に蓄積されると共に、表示装置10に表示される。この場合、デジタル化された映像や音声テキストデータ中に含まれていれば、映像処理部8を通じて表示装置10にその映像が表示され、音声処理部9を通じてスピーカ11により音声出力されることになる。

【0032】次に、第2の実施形態について説明する。第2の実施形態では、キーワードを検出して所望のデータであるか否かを判定する方式は上記第1の実施形態の場合と同じであるが、パケットデータ形式にキーワード部を設定しない方式である。従って、パケットデータ形式は、図3の31、32を削除したものとなる。

【0033】この方式では、一度データを復元してから、テキストデータ中に所望のキーワードがあるか否かをテキストデータ解析法などを用いて判定し、所望のキーワードがある場合はそのデータを蓄積および表示するようにしたものである。図2の基本的な方法に比べればやや複雑な処理方法となる。

【0034】図5に第2の実施形態におけるデータ処理部7aの構成を示す。このデータ処理部7aは、データ復元部40、キーワード抽出部41、キーワード判定部42、キーワード指定部43、キーワード辞書部44、データ識別部45からなる。

【0035】データ復元部40によって受信データを復元した後、キーワード抽出部41によってキーワードを抽出する。そのキーワードが所望のキーワードであるか否かをキーワード判定部42で判定し、所望のキーワードである場合は、“1”のフラグを立て、そうでない場合は、“0”とする。

【0036】データ識別部45では、この判定結果を受け、フラグが“1”の場合にはそのデータを出力し、フラグが“0”の場合には出力しないように制御する。図6に第2の実施形態におけるパケットデータ形式の例を示す。図中50はパケットヘッダ部、51はデータヘッダ部、52はデータ部であり、図3に示すパケットデータ形式のキーワードヘッダ部31とキーワード部32を削除したものとなっている。

【0037】さらに、図7に示すフローチャートを参照してデータ処理部7での処理の流れについて説明する。図7は第2の実施形態におけるデータ処理の動作を示すフローチャートである。受信データがデータ処理部7aに入力されると(ステップB11)、データ復元部40

はその受信データを復元(テキストデータ化)し、その復元後のデータをキーワード抽出部41とデータ識別部45に送る(ステップB12)。

【0038】キーワード抽出部41では、復元後のデータを解析し、その中からキーワード辞書部44に登録されているようなキーワードを検出し、これを抽出する(ステップB13)。キーワード判定部42はキーワード抽出部41によって抽出されたキーワードと受信者が指定したキーワードとを比較して、両者のキーワードが一致するか否かを判定する(ステップB14)。

【0039】その結果、両者のキーワードが一致する場合、つまり、データ中に受信者が望むキーワードが存在する場合には(ステップB14のYes)、キーワード判定部42は判定結果としてフラグ“1”をセットする(ステップB15)。一方、両者のキーワードが一致しない場合、つまり、データ中に受信者が望むキーワードが存在しない場合には(ステップB14のNo)、キーワード判定部42は判定結果としてフラグ“0”をセットする(ステップB16)。

【0040】データ識別部45では、キーワード判定部42での判定結果を受け、その判定結果に応じて復元後のデータの出力を制御する。すなわち、フラグが“1”の場合には(ステップB17のYes)、データ識別部45はデータ復元部40によって復元されたデータを出力する(ステップB18)。一方、フラグが“0”の場合には(ステップA16のNo)、データ識別部45はデータ復元部40によって復元されたデータの出力を禁止するように制御する。

【0041】このような方法でも、上記第1の実施形態と同様に、所望のキーワードを含むデータのみを出力することができる。データ処理部7aから出力されたデータは、MPU5を通じて記憶装置6に蓄積されると共に、表示装置10に表示される。この場合、デジタル化された映像や音声テキストデータ中に含まれていれば、映像処理部8を通じて表示装置10にその映像が表示され、音声処理部9を通じてスピーカ11により音声出力されることになる。

【0042】次に、第3の実施形態について説明する。第3の実施形態は、上記第1の実施形態と同様、外部から送られてくるデータにキーワード部を設けたものに、さらに、所望のデータがあるか否かを示す識別フラグ部を設けた方式である。

【0043】この方式では、キーワードの判定結果を当該受信データ中の識別フラグに示しておき、その識別フラグの状態に応じてデータの復元を制御するようにしたものである。図2の基本的な方法の応用型となる。

【0044】図8に第3の実施形態におけるデータ処理部7bの構成を示す。このデータ処理部7bは、キーワード判定部60、キーワード指定部61、キーワード辞書部62、識別フラグ訂正部63、データ復元部64か

らなる。

【0045】受信者が直接またはキーワード辞書62の中から指定したキーワードにより、キーワード判定部60において受信データ中(後述する図9のキーワード部72)に所望のキーワードがあるか否かが判定される。この場合、単数あるいは複数のキーワードの論理演算(AND, OR)などによって判定する。

【0046】ここで、データ中(後述する図9の識別フラグ部73)には、例えば送信時に“1100”の識別フラグが立てられており、キーワード判定部60で所望のキーワードが存在すると判定された場合には、その識別フラグをそのままにしておく。一方、所望のキーワードが存在しなかった場合には、識別フラグ訂正部63で“0011”に反転させてから、当該データを送るようになる。

【0047】データ復元部64では、識別フラグを見て、“1100”であれば、当該データを復元するようにし、“0011”であれば、復元せずに次のデータを待つこととする。

【0048】図9に第3の実施形態におけるパケットデータ形式の例を示す。図中70はパケットヘッダ部、71はキーワードヘッダ部、72はキーワード部、73は識別フラグヘッダ部、74は識別フラグ部、75はデータヘッダ部、76はデータ部であり、図3に示すパケットデータ形式のデータ部34の前に、識別フラグヘッダ部73と識別フラグ部74を設けたものとなっている。

【0049】さらに、図10に示すフローチャートを参照してデータ処理部7bでの処理の流れについて説明する。図10は第3の実施形態におけるデータ処理の動作を示すフローチャートである。受信データがデータ処理部7に入力されると(ステップC11)、キーワード判定部60はそのデータ中(キーワード部72)に予め設定されたキーワードを検出し(ステップC12)、その検出したキーワードと受信者が指定したキーワードとを比較して、両者のキーワードが一致するか否かを判定する(ステップC13)。

【0050】その結果、両者のキーワードが一致する場合、つまり、データ中に受信者が望むキーワードが存在する場合には(ステップC13のYes)、その判定結果を受けた識別フラグ訂正部63は、当該データ中(識別フラグ部74)に設けられた識別フラグをそのままにし、当該データが所望のデータであるとしてデータ復元部64に送る(ステップC14)。

【0051】一方、両者のキーワードが一致しない場合、つまり、データ中に受信者が望むキーワードが存在しない場合には(ステップC13のNo)、その判定結果を受けた識別フラグ訂正部63は、当該データ中(識別フラグ部74)に設けられた識別フラグを反転し、当該データが所望のデータでないとしてデータ復元部64に送る(ステップC15)。

【0052】データ復元部64では、識別フラグ訂正部63によって訂正された識別フラグをチェックし、その識別フラグの状態に応じて受信データの復元(テキストデータ化)を制御する。

【0053】すなわち、識別フラグが送信時の“1100”のままであった場合には(ステップC16のYes)、データ復元部64は受信データを復元し(ステップC17)、その復元後のデータを出力する(ステップC18)。一方、識別フラグが“0011”に反転されている場合には(ステップC16のNo)、データ復元部64はデータの復元を行わずに次のデータを待つ(ステップC19)。

【0054】このような方法でも、上記第1の実施形態と同様に、所望のキーワードを含むデータのみを出力することができる。データ処理部7bから出力されたデータは、MPU5を通じて記憶装置6に蓄積されると共に、表示装置10に表示される。この場合、映像や音声が含まれていれば、映像処理部8を通じて表示装置10にその映像が表示され、音声処理部9を通じてスピーカ11により音声出力されることになる。

【0055】このように、受信者が要求するデータのみを選択的に蓄積することができるため、データの蓄積に必要な記憶容量の低減化や、蓄積したデータの容易な検索が可能となる。

【0056】なお、本実施形態では、放送データとして、端末間通信のように、特定の受信者を対象として送られてくるデータを想定して説明したが、図3または図4または図9に示すようなパケットデータ形式でデータを送るように定めておけば、例えばテレビ放送などのように不特定多数の受信者を対象として送られてくるデータであっても適用可能である。

【0057】また、上述した各実施形態において記載した手法は、コンピュータに実行させることのできるプログラムとして、例えば磁気ディスク(フロッピーディスク、ハードディスク等)、光ディスク(CD-ROM、DVD等)、半導体メモリなどの記録媒体に書き込んで各種装置に適用したり、通信媒体により伝送して各種装置に適用することも可能である。本装置を実現するコンピュータは、記録媒体に記録されたプログラムを読み込み、このプログラムによって動作が制御されることにより、上述した処理を実行する。

【0058】

【発明の効果】以上のように本発明によれば、データ中にそのデータ内容を特定するキーワードを設定しておき、外部からデータを受信した際に、そのデータ中に設定されているキーワードを検出し、その検出されたキーワードと受信者が指定したキーワードとの比較から、両者のキーワードが一致する場合にのみ、当該データを復元し、この復元後のデータを蓄積するようにしたため、受信者が要求するデータのみを選択的に蓄積することが

できる。これにより、データの蓄積に必要な記憶容量の低減化や、蓄積したデータの容易な検索が可能となる。

【0059】また、データ中にそのデータ内容を特定するキーワードを設定しておき、外部からデータを受信した際に、そのデータ中に設定されているキーワードを検出し、その検出されたキーワードと受信者が指定したキーワードとの比較から、両者のキーワードが一致する場合に、当該データ中に所望のデータがあることを示す識別情報を設定し、データを復元する際に、この識別情報を見て、所望のデータがあることが示されていれば、当該データを復元することでも、受信者が要求するデータのみを選択的に蓄積することができ、データの蓄積に必要な記憶容量の低減化や、蓄積したデータの容易な検索が可能となる。

【0060】また、外部からデータを受信した際に、そのデータを復元し、この復元後のデータからキーワードを抽出し、この抽出されたキーワードと受信者が指定したキーワードとの比較から、両者のキーワードが一致する場合にのみ、復元後のデータを蓄積するようにしたため、データの中に予めキーワードを設定しておかなくとも、復元後のデータからキーワードを抽出することで、受信者が要求するデータのみを選択的に蓄積することができる。これにより、データの蓄積に必要な記憶容量の低減化や、蓄積したデータの容易な検索が可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態に係る携帯端末装置の構成を示すブロック図。

【図2】第1の実施形態におけるデータ処理部の構成を示すブロック図。

【図3】第1の実施形態におけるパケットデータ形式の例を示す図。

【図4】第1の実施形態におけるデータ処理の動作を示すフローチャート。

【図5】第2の実施形態におけるデータ処理部の構成を示すブロック図。

【図6】第2の実施形態におけるパケットデータ形式の例を示す図。

【図7】第2の実施形態におけるデータ処理の動作を示すフローチャート。

【図8】第3の実施形態におけるデータ処理部の構成を示すブロック図。

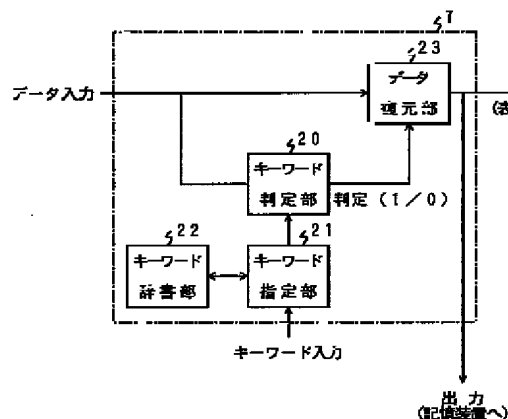
【図9】第3の実施形態におけるパケットデータ形式の例を示す図。

【図10】第3の実施形態におけるデータ処理の動作を示すフローチャート。

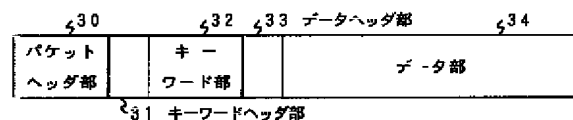
【符号の説明】

- 1…受信アンテナ
- 2…周波数変換回路
- 3…復調回路
- 4…デマルチプレクサ
- 5…MPU
- 6…記憶装置
- 7…データ処理部
- 8…映像処理部
- 9…音声処理部
- 10…表示装置
- 11…スピーカ
- 20…キーワード判定部
- 21…キーワード指定部
- 22…キーワード辞書部
- 23…データ復元部
- 30…パケットヘッダ部
- 31…キーワードヘッダ部
- 32…キーワード部
- 33…データヘッダ部
- 34…データ部

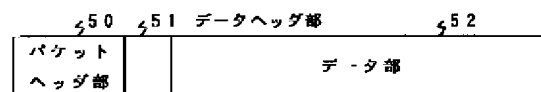
【図2】



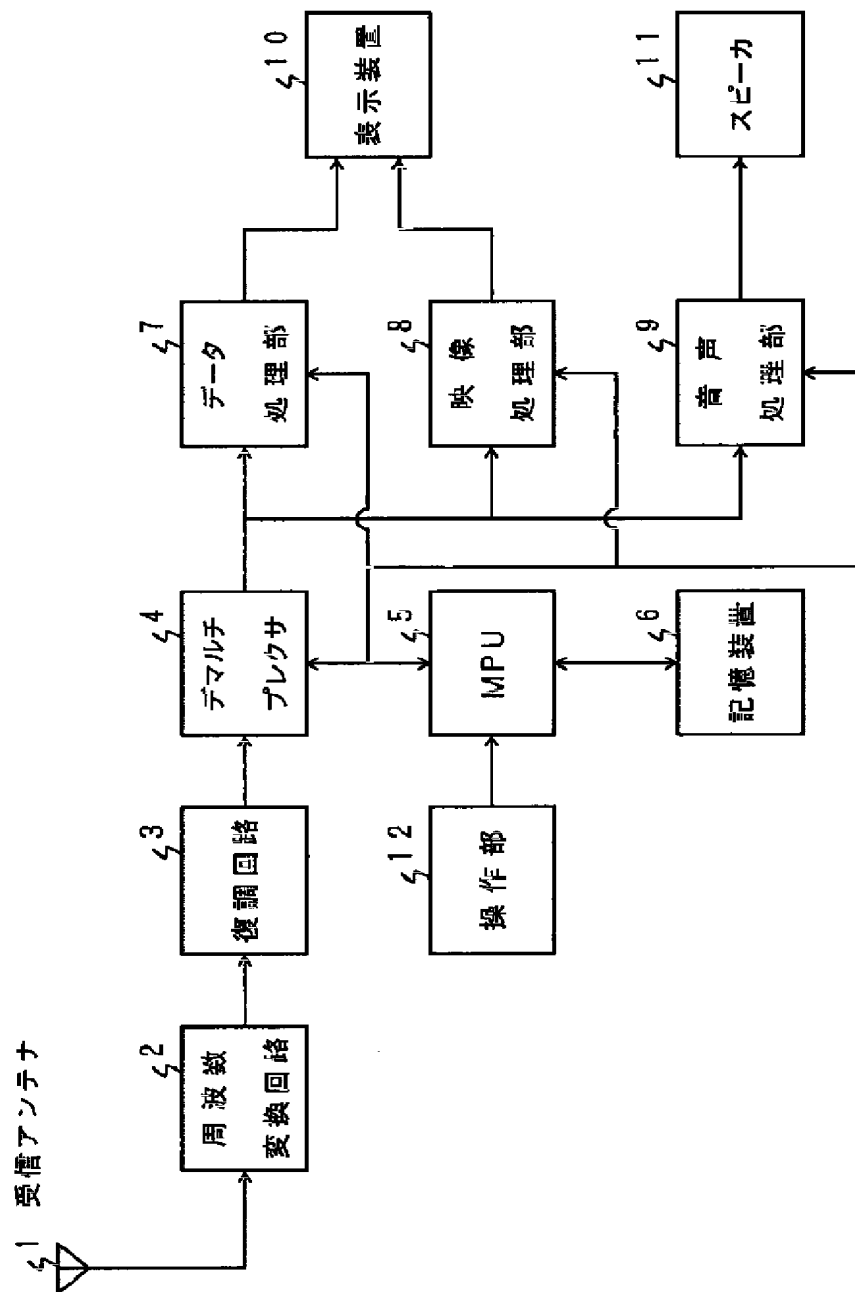
【図3】



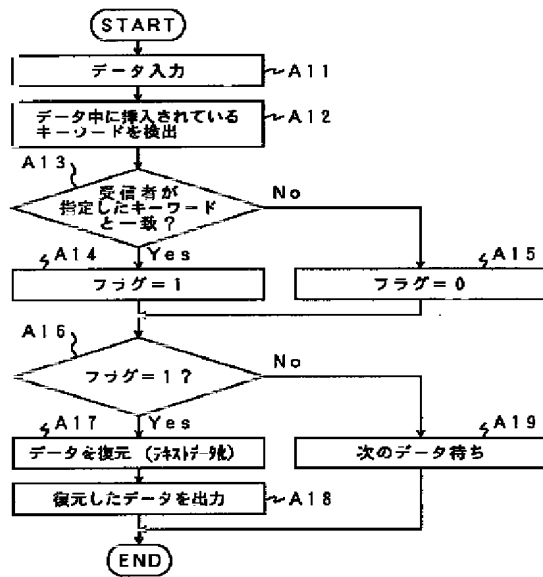
【図6】



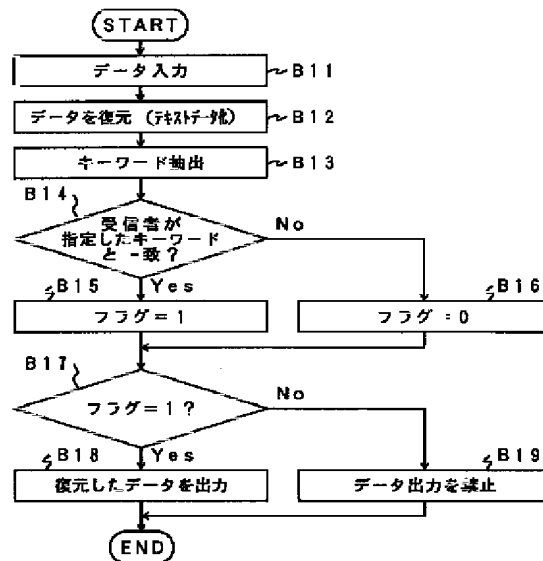
【図1】



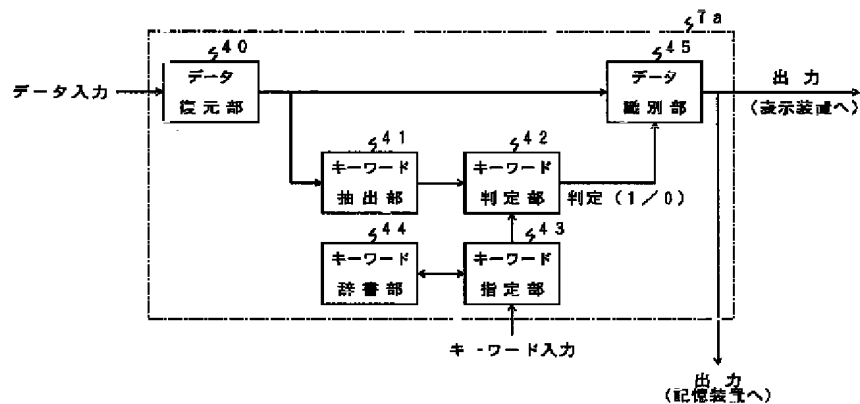
【図4】



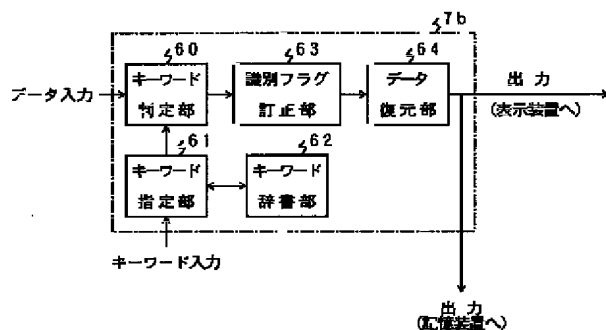
【図7】



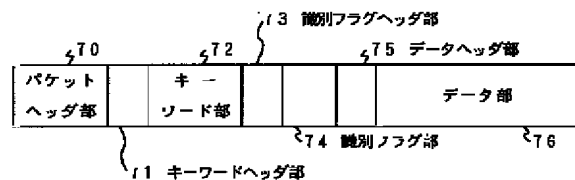
【図5】



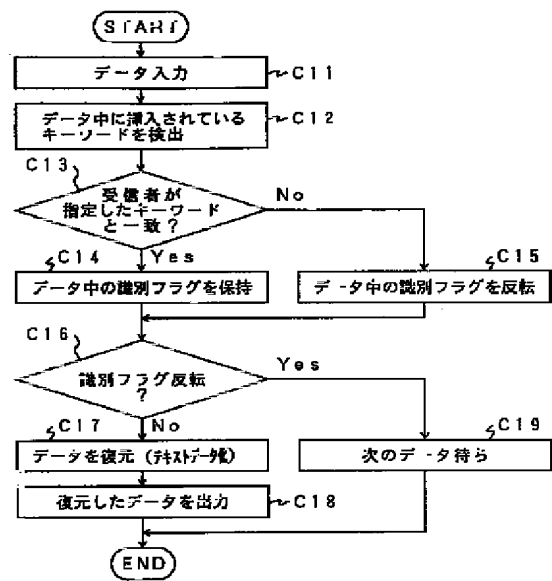
【図8】



【図9】



【図10】



フロントページの続き

(51)Int.Cl. ⁶	識別記号	F I	
H 0 4 N	7/081	H 0 4 B	7/26 1 0 3 A
// H 0 4 Q	7/06		
	7/08		
	7/12		